



山行報告

★曲岳(12月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

今日は、非常に寒いことは予想していたが、天気はよいと思っていた。ところが、甲府盆地に入る頃、南アルプスなどの高い山々は雲に被われている。冬型気圧配置が強すぎて、太平洋側の高い山まで、雪を降らせる積乱雲が飛んできたのだろう。

さらに、近くの低山も、山肌に白いものが見えている。東京などで雨が降った時、山梨の低山には雪が降ったようだ。甲府駅からタクシーで観音峠の先まで行く予定だったが、林道が凍り付いていて、平見城までしか行かれないと言う。しかたないので、平見城まで行ってもらって、そこから山を往復することにする。ただ、時間的に厳しくなるため、曲岳は止めて、枳形山と黒富士だけ登ることに変更する。

登山道を歩きはじめると、すぐに北側斜面に雪が現れ始めた。登っていくと登山道にも雪が現れてきた。この冬、最初の雪との対面だった。



ニホンカモシカ

次第に傾斜が増し、大きな岩峰が二つ並んだところを過ぎると、すぐに八丁峠に到着した。思ったよりも早く着いたので、先に枳形山に登り、次の黒富士で昼食とする予定で、山腹をトラバースして枳形山を目指した。すると、黒い大きなものがドドッと動いた。「熊か」と思ったが、カモシカだった。ふり向いてこちらを見ているので、写真をパチリ。

このトラバースは、北側斜面を行くため、雪が多かった。しばらく歩くと、黒富士と枳形山の分岐に到着。迷わず枳形山に向かっていく。少し行くと樹林が切れ、これから登る枳形山がよく見え、ふり返ると黒富士もよく見えていた。黒富士の山頂に登るには、非常に急で雪のたくさん付いた北側斜面を登らなければならない。私を含めて、3人が軽アイゼンを持ってきていないので、かなり厳しそうだ。



枳形山にて

枳形山への登りは次第に急になり、最後は3mほどの岩場となる。雪が付いていて滑りやすくなかなか厳しい。岩の上に山頂標識があるが、反対側はスッパリと切れ落ちているし、岩の上は雪が付いていて滑りやすい。人数も一人で立

つのが精一杯だ。

反対側の展望を見て、すぐに下に下りて、順番に岩の上まで行ってもらう。次は、黒富士に行く予定だったが、雪が多いので、予定を変更して、曲岳に行くことにする。こちらも雪はありそうだが、山頂直下は南向きなので、黒富士よりは楽だと判断した。

風の当たらないところで昼食タイムとする。とにかく風のあるところは寒い。昼食タイムには、Fさんがココアを振る舞ってくださった。コンロで沸かした熱いお湯だったので、とても体が温まった。

ここから道の付いている八丁峰方面に登って八丁峠に行こうとしたが、ピークからの下りが分かりづらく、北側の斜面をそのまま下りて、来る時に使った登山道に下りた。

八丁峠から曲岳を目指す。この付近には、ウサギやタヌキ、シカ（カモシカ）の足跡がたくさんあり、もっと大きいクマかも知れない足跡もあった。



曲岳山頂にて

曲岳への登山道は稜線に付けられて軽いアップダウンがあるが、歩きやすい。ただ、最後の登りは手を使って登らないと登れないくらいの急登だった。木の幹や根っこに掴まって登

る。山頂直下には、展望の良い自然の展望台があった。富士山はすそ野だけしか見えなかったが、近くの大刀岡山がよく見え、黒富士も見えていた。また、甲府盆地やその向こうの雨ヶ岳、毛無山方面も見えていた。右側をよく見ると、茅ヶ岳と金ヶ岳も見えている。ここからほんの少しで山頂に到着した。

山頂の先にも展望台があるかと思い行ってみたがなかったので、引き返して山頂で集合写真を撮る。曲岳は山梨百名山だった。

下りはスリップしないように、慎重に下る。八丁峠を目指して下っていると、風花が舞ってきた。八丁峠まで下り、さらに登ってきた道を下っていく。ひっひっという声が出たのでルリビタキかと思ったが、ウソだった。しかも、番で現れてくれたようだ。ウソは、繁殖期以外も番でいることが多く、仲むつまじい夫婦なのだろう。登ってくる時には、ルリビタキも見つけ、麓ではエナガも見られたので、今回は野鳥でも収穫があった。

時折舞っていた風花は、細かいながらも完全な降雪になっていた。ただ積もるほどではなく、平見城近くに来ると、青空も一部に広がっていた。タクシーを呼び、平見城入口のバス停を目指して車道を下っていった。 記：網干

コースタイム

平見城(9:15)…八丁峠(10:30-10:40)…杵形山(11:05-11:15)…黒富士への分岐付近(11:25-12:05)…八丁峠(12:20)…曲岳(13:10-13:25)…八丁峠(14:05-14:15)…平見城入口(15:25)

★白山（忘年山行）（12月16日）

参加者 会員(障害者6名、健常者19名)

山仲間アルプを設立して10回目の忘年山行となる今回は、丹沢の入口にある桜山から白

山への縦走とした。

今年の最多参加賞は、22回参加のYさんだった。2位は19回参加のKさん、3位は18回参加のNさん。障害者部門の最多参加は、16回のFさんだった。今年度は、景品などを用意しなかったが、Iさんが今回参加した人の中からたくさん参加した人に、プレゼントをしてくださった。Iさん、ありがとうございます。

また、大人の景品はなしにしたが、新人賞を受賞した小2のY.K君には賞状を送ることにした。ただ、今回の忘年山行には、他に二人の子が参加するので、その子たちにもそれぞれ「がんばったで賞」と「たのしかったで賞」を送ることにした。ところが、年月日の年を間違っていて、大失敗。他の間違いがあって修正したのだが、そこは気が付かなかった。やっぱり誰かチェックをする人が別に必要だと感じる。



K.Kちゃんに新人賞の賞状を送る

授賞式の後には、1班から歩きはじめる。紅葉が終わり、山道は落ち葉で埋め尽くされている。しかし、今日は異常なあたたかさだ。下着一枚で歩いても全く寒くない。そして、子どもたちは、元気に駆け上がっている。元気なのはよいが、すぐにK.Kちゃんからまだ休憩しないのという声がかかる。桜山の山頂までがんばろうと、励ましたりなだめたりしながら登っていく。

落ち葉の上に羽根を閉じた地味な蝶がいるなどと思ってみたら、一瞬、羽根を広げてくれた。羽根の表側は、とてもきれいな瑠璃色だった。帰って図鑑を調べたらムラサキシジミのようだった。



ムラサキシジミ

桜山の山頂にテーブルがあったので、そこで昼食タイムとする。今回は、うどんとお汁粉を作って、みんなで楽しむ。「ワケギを持ってくるつもりが間違えてうどんを持ってきた」という人がいたと思ったら、「あれ、うどんを忘れてしまった」という人もいて、帳尻が合ってしまうところがおもしろい。桜山の山頂はとても展望が良く、遠くにスカイツリーも見えた。



桜山山頂でうどんやお汁粉を楽しむ

桜山から白山に向かう。ゆっくり行こうと思うのだが、子どもたちはどんどん先に行ってしまう。ほどなく白山神社に到着。ここが山頂かと思ったが、山頂はもう少し先にあった。山頂には、展望台があり、とにかく、関東平野の地平線が丸く見えるほどの広い範囲の展望がある。右手には大山が見え、その左には能登半島方面、中央付近には江ノ島が見え、三浦半島や房総半島も見えていた。もちろん都心のビルやスカイツリーも見えている。

白山から、狛坂峠を経て、順礼峠に向かう。小さなアップダウンだが、以外と長く、良い運動になった。順礼峠が近づく頃、子どもたちが大きな声で、一人ずつ名前を呼び始める。今回

参加していないぴーまんさんの名前まで、何回も呼んでいた。Fさんに「鬼ごっこをしよう」と呼びかけ、順礼峠では、Fさんが子どもたちの鬼ごっこに付き合ってくれた。Fさん、本当にありがとうございました。

順礼峠から七沢温泉側に下り、バスで本厚木に行き、予定していた忘年会を行って、今年の労をねぎらい合い、盛り上がり、今年を締めくくることができた。今年1年のみなさまのご協力に深く感謝いたします。 記：網干



《参加者の感想》

忘年山行白山は自分一人の参加予定でしたがSくんの参加を聞き、孫たちも急遽参加させていただくことになりました。

朝早いにもかかわらず二人は元気でみんなに会えることを楽しみに朝からハイテンションでした。新宿駅でみんなにあったときはもう興奮炸裂、Sくんと手をつなぎ合って離れない。子供は表現が素直でいい、そういう気持ちはいつまでも持ってほしいものです。

自己紹介の際、Yは新人賞をいただきました。Aさんから表彰状をいただき、はにかみつつ、とても喜んで。ばあちゃんも感激してしまいました。Kは「たのしかったで賞」、Aさんからのサプライズに感謝です。

わたしは最多賞2位で、Iさんからのサプライズに感激しました。Iさん、ありがとうございました。大事にします。

白山の登山は子供たちにとっては公園の中のハイキングのようではじめから飛ばして

いく。もみじの絨毯を蹴散らしながらどんどん歩いていってしまう。足が軽い、身が軽い、心も軽い。なにも考えず走って遊ぶ子供たち。子供たちから受けるエネルギーはすごく純粹で透明かつ強力だと思う。

白山の手前、桜山の大きなテーブルをお借りしてうどんを作る。食材はなると、あぶらあげ、人参、しいたけ、まいたけ、ミツバととととと出てくる。関西風の薄味でおかわりしてしまった。



デザートにおしるこ登場。Aリーダーもお餅を半分に切っている。みんなで作りあげる楽しさと美味しさは格別です。お姉さまがたのいきおいであつという間に出来上がり、あつという間に完食。あ〜なんて幸せなんだろう。贅沢な時間を過ごさせてもらった。子供たちの思い出がまた増えて、大人になっていつかこんなことをするときがきて、この時の思い出がふと頭をよぎるときがくるのでしょうか。アルプの温かい人たちに触れて成長していく子供達。年に何度もチャンスはないけれど、それでも会えばその時間はあつという間に埋まってしまう。そんな山仲間アルプに出会えたことは、幸せです。

おかげさまで今年もいろんな山にいけました。今年を振り返るとときどきする山ばかり。山っていろんな顔を持っていて、厳しくて優しい。そんなことを感じます。Aリーダー、そしてそのときの仲間感謝してます。ありがとうございました。

皆様、来年も またさらに成長していく孫た

ち同様、よろしくお願ひします。

記：S.Kさん

白山展望台からは、江ノ島や、東京スカイツリーが、霞んでいましたが、見えてとても展望の良い山でした。また、忘年山行にしては、冬装備では、大変暑い一日でした。山頂でのうどんも、大変美味しく、具材もたっぷりで、大満足でした。デザートのおしるこも、以前より学習して、汁少なめで、上手に作っていただき、飽きのこない甘さで、満たされました。

続いて、コーヒーや、おフランス性のお菓子までいただき、山でのフルコースをたっぷり味

★高見石(12月22日～23日)

参加者 会員(障害者4名、健常者4名)

☆12月22日

今年最後のクリスマス山行は、北八ヶ岳の高見石とした。

茅野駅から渋ノ湯までのバスで、KRさんが激しい車酔いで体調を崩し、UさんとCさんから付き添ってようすを見ていただいたが、体調は快復せず、残念だが、渋ノ湯で休んで、次のバスで帰ってもらうことにする。

本体は、完全なサポート不足で、障害者対健常者が1対1の状態になってしまった。苦しい判断をしなければならぬが、様子を見ながら慎重に行くことにする。

一日目は曇り空で、時折雨やみぞれが混じる天気だったが、それ以上崩れることはなかった。歩き始めの頃が一番凍っていたので、すぐにアイゼンを出して装着してもらう。その後は順調に登り、大岩が積み重なった賽の河原を過ぎ、緩やかな登り坂を進んでいくと、高見石小屋に飛び出した。

高見石小屋では、UさんとKさんがケーキの

わえて最高でした。

お昼の材料の手配をしていただいた皆様、忘年会の一次会の幹事を、つとめていただいたYさん、二次会を手配して下さったS.Kさんを含め、参加された皆様、ありがとうございました。

記：M.Kさん

コースタイム

尼寺バス停(10:00)…桜山(10:45-12:15)…白山(12:30-13:00)…猪坂峠(13:35)…順礼峠(14:35-14:50)…七沢温泉入口バス停(15:10)

生地と材料を持ってきてくれて、栗がたくさんあったモンブランの大サプライズがあった。しかも、ろうそくを数本立てて、クリスマス気分を満喫する。



☆12月23日

朝食後出発準備をするが、かなり時間がかかりそうなので、私は一足先に高見石に登って、御来光の写真を撮ってくる。小屋の外の気温は氷点下10℃だった。

戻ってきても、まだ小屋から出てきていない人がほとんどだったが、せっかくなので、全員で高見石に登ることにする。その前に、小屋の方が、写真を撮ってくださった。小屋の餌場には、ホシガラスが数羽訪れていた。

大岩が積み重なった歩きにくい高見石に、慎

重に登る。ピークに付くと、Hさんが一番高い岩に立ち上がって、写真を撮って欲しいと要望がある。その後は、次々に一番高いところに立ち、年賀状の写真なのか、お見合い写真なのか分からないが、一人ずつ撮ることになった。



小屋に戻って、ふと小屋の窓を見たら、窓ガラスに、鳥の羽のような氷の結晶が無数に付いている。何という美しさだろう。自然は最高の芸術家だと思う。



小屋を後にして、中山に向かう。上に行くほど積雪も増え、樹氷も出てきた。日が当たり始め、眩しいほどの明るさだ。今日は、快晴に恵まれた。

中山展望台（山頂）で、浅間山、横岳や蓼科山方面、遠く五竜岳から穂高連峰までの北アルプス、乗鞍岳、御岳、中央アルプス、そして隣の天狗岳がよく見えていた。槍穂高の手前には、鉢伏山や車山が見え、その左には美ヶ原が見えている。そんな最高の展望を楽しむ。

中山から東側に歩くと、樹林が切れ、さらに奥秩父方面も見え、麓には雲海が広がっていた。

太陽の光は燦々と降り注ぎ、女性陣から私をきれいに撮ってという注文が付く。誰かが「それなりに」と応える。いつもの会話を楽しみ、中山峠へと下る。途中で硫黄岳がよく見えるところもあった。



中山峠からは、急な斜面となる。しかし、今回はしっかりとトレースが付いていて、雪もかなり締まっていた。急斜面の最後でシリセードを少しだけ楽しむ。急斜面が終わり、緩やかに下っていくと、左手に稲子岳南壁が見える。さらに行くと、肌色の樹肌が美しいダケカンバ林となる。さらに歩いて、本沢温泉への分岐を過ぎると、少しでしらびそ小屋に着く。小屋からの天狗岳は、堂々と聳えていて、いつもながら格好いい。餌場には、コガラが来ていた。一瞬リスも見えたが、餌場までこなかった。



コマドリ沢へ下る道は、完全に凍結していて、アイゼンが良く聞いた。しかし、Uさんのアイゼンはあまり使っていないというのに、爪の先が丸まるまで、氷では歯が立たず、滑っていたようだ。雪用のアイゼンなんてあるのだろうか？

無事に全員、稲子湯に着き、温泉に入って汗を流す。稲子湯からのバスは廃止されたいので、タクシーを呼んで、松原湖に向かう。KRさんに電話したら、昨日は、何とか家に帰り着き、ついさっきまで寝ていたらしい。無事について良かったが、早く快復して欲しいと願い、小海線のディーゼルカーに揺られて帰途ついた。

記：網干

《参加者の感想》

初めての冬山でしたが、皆様のお陰ですばらしい経験ができました。高見石や中山からの眺望は期待以上で、冬山に登る人の気持ちが少しわかったような気がします。雪の中を歩いているときに足がひっかかり何回か転倒しましたが、起き上がろうとして手をつくると更に体が沈んでしまいました。特に冬山では、訓練を重ねて、少しずつ覚えていく必要があると痛感しました。高見石小屋でのパーティも最高でした。なんであんなに楽しいのでしょうか。ありがとうございました。

記：R.Cさん



中山の南側で

いよいよ冬到来、今季初の雪山は高見石～中山峠。その前から体調がイマイチだったので体を休めてその日に集中してコンディションを整えて臨んだ。見送る孫たちからはぼくらも連れて行ってと懇願されたがそれを振り切って電車で飛び乗っていざ出発。

あずさの窓からは雨の光景。すでに甲府にしている深澤さんからメール、トンネル超えたら雪だったよと。どこかで聞いた言葉だ。あれ

は新潟のトンネルの話だとかいってAさんが盛り上がる。そんな対話で盛り上がるこの会はとても楽しい。わたしはこの道中も楽しみでならない。予想どおりだった。

KRさんが体調を崩してしまい、そこで帰りとなってしまい、その心中を思うと心が痛い。さぞかし無念だっただろう。KRさんの心痛も含めて、安全で事故のない山行をして楽しもう、そんな気持ちで出発。

たまに雨まじりの雪が降ったが、歩いていると暑くて汗が吹き出てくる。気温は6度～3度。3度～マイナス3度へと下がってゆく。じっとしていると寒くなるからあまり休まずゆっくり歩いてくれるリーダーに感謝する。

一番気になっていた大きな岩ごろの賽の河原も適度な雪があってアイゼンのおかげですべらず無事通過。ほっとしてまた樹林帯の中を冷たい風を感じながら歩く。みんな足どりが軽い。わたしのアイゼンだけが重いのか？と思いながら高見石小屋に到着。小屋の2つのこたつは先約がいて入れなかったがストーブを囲って少し早いクリスマス。

Uさんとサプライズを企画して、スポンジケーキ、生クリーム、マロンクリーム、栗、アーモンドを持っていき、小屋でモンブランを20分くらいで完成。ろうそくに火を灯し、きよしこの夜を歌う。わたしは高見石にいたらこれをしようとイメージしてきた。みなさん、今回もノってくれてありがとうございます。Uさん、いつもこんなわたしを否定せず、いいねってしてくれて感謝です。

翌日は予想に反してピーカンの晴れ。あわてて日焼け止めを塗るUさんにわたしも塗ってもらう。小屋の窓ガラスに張り付いている雪の結晶が綺麗だった。自然ってすごいものを見せてくれる。

中山峠までの雪道のゆるやかな登り。雪がなかったら歩きにくいこの登山道。雪はそんな障害物を取り除いて平にしてくれる。だからわた

しは雪山が好き。展望のよい中山、風もほどよく、周りを見渡す限り山山山だ。真っ白な北アルプス、中央アルプスがよく見える。道標にはえびのしっぽ。同じ向きにみんな並んでお行儀がいい。見習おう。

峠からしらびそ小屋まではころがるように山を下る。久しぶりに訪れたしらびそ小屋、5年前と同じ、変わらない。しらびそ小屋こそ真の山小屋、素朴で温かい。ひなたぼっこしながら昼食。ここにも幸せな時間がある。しらびそ小屋、今度訪れるときはここにまた泊まって動かない時間を過ごしたいと思いながらここをあとにする。

みんなの足取りは最後まで軽く、だれも転がることもなく、無事に稲子湯へ到着。冷えた体をあたためてくれる温泉はありがたい。思わず声が出てしまう。岩ごしの男性風呂に聞こえてしまったらしい。声が聞こえてますよ〜といわれ女性陣で笑ってしまった。

★鳥ノ胸山(1月6日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

年が明けて最初の山行は、山梨県道志村にある鳥ノ胸山だ。都留の高速バスの停留所からタクシーで入れるところまで入ってもらったことにしたが、登山口までは来ていないと思いこんでしまい、そのまま林道を歩いていく。すると、最初に現れた橋に水晶橋と書いてある。あれまあ、城ヶ尾峠方面に来てしまった。

すぐに引き返し、登山口を探しながら歩く。結局、タクシーを降りたところに戻った場所に登山口があった。降り出しに戻ってしまったが、気を取り直して出発する。それでもタクシーで奥まで入ったおかげで、30分早く出発できた。

いきなりの急登をがんばる。しばらく登ると、山の上に富士山が頭だけ見せるようになって

雪山は天気に大きく左右される。風がふくとどんどん温度が下がる。今回はサポートの不足を心配したけど、好天気がサポートを応援してくれた気がする。すべて自然のままに、わたしたちはその中で、遊ばせてもらっている、そんなことを感じた山行だった。

相変わらず笑顔でみんなに幸せを運んでくれるAリーダー。お疲れさまでした。参加者の皆様、たくさんの勇気と元気をありがとうございました。また来年、山で会いましょう。

記：S.Kさん

コースタイム

- 12/22 渋ノ湯(12:20)…高見石小屋(14:55)
- 12/23 高見石小屋(7:10-7:50) 高見石往復・8:00…中山(9:10-9:25)…しらびそ小屋(11:10-11:35)…稲子湯(12:55)

きた。ボーイスカウトが設置したかわいい道標がほほえましい。鎖の付いた滑りやすいところを下り、少し行くと雑木の頭に到着する。檜河丸や畦ヶ丸、大室山がよく見える。これから向かう鳥ノ胸山も見えていた。



かなり下って、鳥ノ胸山南峰への急坂を登り、もう一度下ってから登り着いたところが、鳥ノ胸山の山頂だった。山頂からは、富士山が一望。新年の最初の登山は、やはり富士山の見える山

に限る。今日は風もなく、穏やかな登山日和だ。手前の山の奥に、雪を抱いた南アルプスの山も見える。頭だけだが、甲斐駒、アサヨ峰、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳などが見えていたようだ。



鳥ノ胸山山頂にて

山頂で40分ほどゆっくり休み、急坂を下る。急だけでなく、ざらとした土で滑りやすい。バランスの良いNさんも滑ってしまった。サポートされていたMさんが、ここでは、後で引き上げてくれていた。その後は、体制を立て直し、慎重かつ順調に下っていく。林道に出て、さらに下ると、道志川に架かる橋があり、タクシーを予約していた道の駅どうしに着く。予約時間まで2時間もあるので、あたたかな部屋の中で、ほうとうや鮎の塩焼きなどを楽しみながら、話しながら花を咲かせて、タクシーを待った。

記：網干



急斜面を下る

《参加者の感想》

今年初の登山は道志の鳥ノ胸山にいき

ました。待ち合わせの新宿駅では新年のご挨拶。バスの旅は乗り換えがなくてお気楽。バスから見える富士山は大きく感じた。

今年は巳年なのになんで鳥のつく山？ 蛇の名がつく山はあるのだろうか？ なんて話しながら登山口からいきなり急登に汗を吹き出しながら登る。冬は枝から葉が落ちて木の隙間からよく山が見える。癒される～そんな言葉がふっと出てしまう。

周りを見渡すと3000m級の山々は頭が真っ白だ。リーダーが「あれが甲斐駒ヶ岳ですよ」と教えてくれた。遠いのに高い。富士山はひとときわ白く気高く凜としている。綺麗。やっぱり日本一だ。

登山道はなかなかの急登でロープなどもあったが道は整備されているように思った。稜線にでると気持ちがよく南峰から北峰と渡り、まちにまった昼食。Fさんがココアをふるまってくれて、ちょっと薄かったけど暖かくておいしかった。富士山を見ながら昼食、Aさんからも新潟のおみやげが出てきてなかなか都会では食べられないものをいただいた。貴重なおみやげ、ごちそうさまでした。

下山はなかなか急でしたが慎重に歩いてなんとか転ばずに道の駅に到着。日本にはいろいろな名前の山がある。鳥ノ胸山という名前の由来もあるのででしょうか。今年初の登山もよく晴れて、今年も幸先がよさそうだ。

今年も楽しいアルプの方々とたくさん山へいけますように。皆様、今年もどうぞよろしくお願ひします。

記：S.Kさん

コースタイム

落合橋(10:00-10:30) … 雑木の頭(11:30-11:40) … 鳥ノ胸山(12:20-13:00) … 道の駅どうし(14:15)

★子ノ権現(1月20日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)

会員外(障害児1名、健常者1名)

7:50 遅刻者なく集合。今回 2 回目の参加となる小学 2 年生の H 君の元気なあいさつで寒さも吹き飛ぶ。所沢駅でにぎやかなお姉さん？F さんが乗車。背中には 70 リットルのリュック、どこにいくのでしょうか？？ 飯能駅バス停には 20 名近い団体、スタート地点こそ違うが竹寺からは同じルートとのこと。雪も心配なので心強い。

10:10 中沢バス停に到着。山には思ったほど雪はない、東京、千葉より降らなかった様子。とはいえ日陰には雪、氷が残る。日陰の雪道を登りはじめる。H 君は雪で大喜び、やはり子供は元気。



竹寺茅の輪にて

11:15 竹寺に到着。竹の鳥居、茅の輪をくぐり本殿へ。飯能駅バス停で一緒だった団体に会う。予定ではここで昼食だったが少し早かったので先へ進むことにした。本殿裏より関東ふれあいの道になっている登山道へ。雪がたっぷりあったがやわらかく、緩やかな登りだったのでアイゼンは使わずに進むことができた。

12:10 急坂を上りきったところが豆口峠。お腹もすいてお昼にしたいところだったが一面雪で日陰なので行動食をとり先へ進む。

13:05 子の権現下の日当たりのよい場所でやっと昼食。F さんより全員にココアの差し入れ。おしかったあ～、ありがとうございます

た。さすが 70 リットルのリュック、なんでもできます。



ココアを作る

13:50 昼食後子の権現へ。ここは足腰守護の神仏とのこととみんな真剣にお願いしていました。



子の権現にて

14:20 子の権現出発ししばらく車道を歩いたところで予定コースの滝不動への登山道入り口に到着。登山道は暗く雪もありアイゼンが必用な状況。日もかげってきて気温も低下していたので予定変更し車道をそのまま進み西吾野駅を向かうことにした。ところがしばらく進むと西吾野駅とかけられた登山道入り口が現れる。この登山道にも雪。やはりアイゼンは避けられず悴む手で苦労しながらも装着完了。15 分くらい下ると雪もなくなりアイゼンを外す、やはりないと軽やか。

16:25 西吾野駅到着。予定より 1 本遅い電車で帰路につく。

展望はあまりないルートでしたが雪山気分を味わい、アイゼンの練習もすることができました。H 君がまた山に登りたいといってくれた

ことが何よりだったのではないのでしょうか。参加された皆様、ありがとうございました。

記：佐藤

《参加者の感想》

お天気に恵まれ、見所満載のコースでした。竹寺では茅の輪をくぐり、木彫りのトートンポールなどを見ることができ、子の権現天龍寺では鉄ゲタ・大ワラジ・仁王像などなかなかの見ごたえでした。

H君もいろんな人と手をつなぎながら最後まで元気に歩き通し、帰りの電車でも元気良く

歌を歌っていました。最後に「楽しかった？」と聞いたら「楽しかった！」と答えてくれました♪将来、有望ですね！

お昼はFさんがココアを振舞ってくださり、みんなでいただきました！皆様ありがとうございました！今年もみんなで山を楽しみましょう！

記：M.Yさん

コースタイム

中沢バス停(10:10)…竹寺(11:15)…豆口峠(12:10)…子ノ権現(13:50)…西吾野駅(16:25)

★蔵王(1月26日～27日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

☆1月26日

夜行バスで山形駅に着く。前日のうちに来ていたNさんと合流し、これからの予定を確認しあう。天気が明日よりも今日が悪いと判断していたため、予定を変更し、今日、山寺に行き、明日、熊野岳を目指すことにする。

山形市内も、冬型が強まって、かなりの雪が降っている。電車の車窓からは、雪景色が広がる。山寺駅で電車を降り、歩いて山寺に向かう。

まずは、立石寺本堂の根本中堂に行く。雪は本降りだ。一人で来た若い女性がいたが、運動靴を履いていた。まさか上までは行かないだろうと思っていたが、上で再会した時は、長靴に変わっていた。それに気づいたので、声をかけたら、彼女は香港から来たそうで、日本語は分からないということだ。Cさんは、しっかりと英語で話しかけていた。

入場料を払って山寺の石段を登っていく。雪が積もっているので、滑らないように注意が必要だ。百畳岩を見て、せみ塚から仁王門、性相院を過ぎ、中性院にたどり着く。ここには「な

でぼとけ おびんずるさま」というなでると長寿を授かり、ぼけ防止にも良いという銅像があり、みんなが頭をなでていた。御利益やいかに？



山寺の奥の院を目指す

さらに奥の院まで行き、もう一度、中性院に戻り、五大堂に行く。五大堂からの展望は、山寺や麓の町がよく見え、すばらしい展望だった。



五大堂から見た山寺

山門まで戻り、次の電車まで時間があったので、山寺芭蕉記念館に行くことにする。ここへの道から先程登った五大堂などがよく見えた。記念館は休館ということで、駅に戻って、電車で山形に行く。駅の構内の食堂で、昼食を取り、バスで蔵王温泉に行く。

バス停からスカイケーブルまで歩き、ケーブルで一気に上に上がり、ロッジを目指す。視界が悪かったが、無事にロッジに到着した。

ロッジは、20人ほどの宿泊らしいが、暖炉に薪をくべて、火を付けてくださった。吹雪の屋外とは違って、天国のように暖かい暖炉の近くで、いこいの一時を過ごし、おいしい夕食を食べ、明日に備えて、深い眠りについた。

☆1月27日

ロッジの方は、通常よりも早い6時30分に朝食を準備してくださった。外は視界が十分あり、ドッコ沼も見える。もしかしたら、熊野岳まで行かれるかも知れないと期待が膨らんだ。

「また来てください」というやさしいロッジの方に挨拶をして、厳しい寒さの外に出る。まずは、ワカンなどを付けず、ツボ足で登ることにする。整地されたスキー場は歩きやすい。



きれいな樹氷

どこを登っているのか良く分からなかったが、片貝リフトの終点に付いたことで、今いる位置が良く分かってきた。片貝沼付近で休憩し、急坂のパラダイスグレンデを登る。パラダイスグレンデからザング坂を登る。この付近に来ると、完全に霧に包まれた。しかし、よく見ると、

周囲にはアオモリトドマツの樹氷が出てきた。さらに登ると、完全な樹氷がたくさん現れる。Fさんは、樹氷に抱きついて、「本当に氷だ」と喜んでいいる。



モンスターと呼ばれるアオモリトドマツの樹氷

蔵王ロープウェイの地蔵山頂駅に着くと、リフトなどが動き始めたこともあり、一気に人が増えた。私たちは、ロープを越えて、今日トップバッターで地蔵山を目指す。膝くらいまでのラッセルだが、吹きだまりの急なところは、雪をかき分け、膝を使って雪を押さえ、登ることになる。スノーシューのFさん夫妻にも、先頭でラッセルをしてもらおう。樹氷の脇を通って登っていく。途中からCさんが先頭で登っていく。次第に雪が締まって潜らなくなってきた。霧も時々、薄くなったり晴れる時もあり、後の三宝荒神山や麓の方も見えるようになってきた。



地蔵山山頂にて

帰る時間を考え、地蔵山で引き返すことにする。地蔵山では、来年の正月用の写真を撮ったりしながら、たどり着いた喜びに浸る。熊野岳方面は、完全に霧の中で、何も見えない。ただ、時間があれば行くことができたかも知れない

と思う。

山頂から引き返して、蔵王ロープウェイで蔵王温泉まで下る。麓はもう完全に晴れ上がっているようだ。温泉に入り、バスで山形駅に行く。



帰りの新幹線の車窓から、真っ白な蔵王方面の山々が見えていた。

記：網干

《参加者の感想》

蔵王、行く前から天気予報が気になっていたが、リーダーAさんのメールのこれからの気象の説明が安心材料となり新宿へ。新宿につけばみんな明るくて、やっぱりきてよかったと思う。

朝の山形は雪がしんと降っていて関東地方とはちがう銀世界。しんと雪が降る中、山寺を歩く。初めての体験だし、そうそうできないこと。山寺は雪色で色はなく、静かな山寺に粉雪が降る。冬景色を堪能。素晴らしい。山寺の冬景色は水墨画のよう、とHPにあったがまさしくその通り。圧巻でした。

27日の天気はまさしくリーダーの言うとおり、昨日の風もやんで晴れ間が時々現れる。ずっと晴れていたら当たり前に見えるものが時々現れるから感動してしまう。

★富山(2月2日)雨のため伊予ヶ岳を変更

参加者 会員(障害児1名、健常者15名)

会員外(障害児1名、健常者2名)

ロッジから地蔵岳までまだスキーヤーのいない道をつボ足で登る。歩いているのはわたしたちだけ。なんて贅沢な時間。時間を忘れて無心に歩く。

モンスターが現れたときは心臓にぐっと迫力、やっぱりとどまつの樹氷は違う気迫を感じる。ひとつひとつが大きくて、怪獣のよう。それは風に立ち向かっているようにみえる。

ロープウェイ山頂駅からスキー防止ロープを越えて地蔵岳へ。まだだれも足をいれていない。リーダーが道を作ってくれている。そのあとを続々と人がたやすく歩いてくる。普通の靴で歩いている人もいる。わたしたちが頑張って歩いた、ころころころんで出来た雪の道。誇らしい。

Nさんがいうとおり、山はいつてみなけりゃわからない、その言葉の通りでした。どんな環境においても楽しめる人がたくさんいてくれたから今回の山旅も楽しかったのだと感じます。人の力ってすごい、そんなことを感じた2日間でした。大丈夫、天気はよくなる、そういうリーダーに感謝します。そして参加者の皆様、楽しい時間をありがとうございました。

記：S.Kさん

コースタイム

1/26 山寺駅(8:20)…(山寺他見物)…山寺駅(11:10)

1/27 ロッジ ZAO ドッコ沼(7:50)…蔵王ロープウェイ蔵王山頂駅(9:10)…地蔵山(10:00-10:15)…蔵王ロープウェイ蔵王山頂駅(10:30)

今回の参加者は、小学生以下 4名 大人 15名でした。

7:30 15名が千葉駅に集合。Kさん一家 3

人は蘇我駅で合流。Mさんは岩井駅で合流して全員集合しました。電車が進むにつれ雨が強くなってきました。

9:38 岩井駅に到着すると強い雨となり、駅に隣接している観光案内所で確認した所、昼まではやみそうにないとのこと。鎖場は危険と判断し、伊予ヶ岳を富山（とみさん）に変更することに決定しました。

10:10 駅から登山口まで歩くこともできますが、雨なのでバスに乗り登山口で降ろしてもらうことにしました。トミーバス（6歳以下は無料、7歳以上は200円）は自由乗降が可能で運転手さんもいろいろなお話をしてくださり、大変助かりました。

10:25 福満寺に到着。仁王像が立派です。ここで自己紹介をして出発しました。先頭はAちゃんでかなりハイペースでした！日頃、サッカーをやっていて走るの大好きというだけあって速い、速い。階段やアップダウンもへっちゃらでした。途中、水仙が一面に咲いている場所があり、みんなで香りを楽しみました。登山道は整備されていて、道標もきちんとしていました。



スイセンの群落にて

11:30 急勾配の石階段を登ると観音堂に到着です。ここで、雨と風が強くなり台風のようにになりました。すぐ、上に南峰の頂上があるのですが、寒いので省略して、次に進みます。急勾配の石段を今度は下って左手のコース北峰に向かいます。

12:00 北峰展望台広場に到着。展望0です

が、子供たちは展望台の上まで行きたいとのこととで登ります。山頂マークのあるところで記念撮影。寒いのですぐに下山します。くだりも階



富山南峰を目指して急斜面を登る

段続きで急勾配が続きました。泥でぬかっているのが慎重に進み、子供は手をつないで一緒に下ります。ここが一番の難所だったと思います。そばにいた大人メンバーの方が適宜、子供と手をつないでいただいたのでよかったと思います。徐々に雨が弱まり車道に出たところで快晴となりました。



富山北峰にて

12:50 南総里見八犬伝の伏姫籠窟（ろうけつ）に到着。少し上がったところに八角形の伏姫舞台がありここで昼食タイムとしました。仁義礼智忠信孝悌の八文字が書かれていました。

13:30 お腹が落ち着いた所で、電車の時間14:20を目指して出発しました。気温は上昇し、ぽかぽか陽気の中、水仙や菜の花をめでながら車道を駅まで歩きました。

14:05 岩井駅に到着。朝、観光案内所に、地図を忘れてしまったのですが、帰りにはなんと駅に張り紙がありました！



伏姫の籠穴にある玉

「今朝、富山に行かれた方、お忘れ物をお預かりしています。観光案内所にお立ち寄りください。」忘れ物を回収できたのもよかったです。観光案内所の方がわざわざ張り紙をしてくださっていたことに驚きました。岩井駅の観光案内所の方はとても親切で大変温かみを感じることができました。

14:20 岩井駅を出発し、帰路につきました。2つ先の保田(ほど)駅で5名が途中下車し、お魚がおいしい「ばんや」に立ち寄りとのことでした。海をみながら、暖かい日差しを浴びて予定より早い帰宅となりました。

一時は雨と強風でびしょびしょになりましたが、泣き出す子供もおらず、みなたくましく歩き通しました。これからが楽しみです！要所、要所で子供たちと手をつないでいただきました皆様、ありがとうございました。

記：餘永(光)

★檜洞丸(2月17日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

檜洞丸を目指したのは、法人を設立した2003年の11月16日だった。その時は、展望園地の少し上で時間切れのため引き返した。そのため、今回は、休憩時間を通常より短くして、

《参加者の感想》

好天が続いてきたが、登山日の2/2だけは何故か曇り一時雨の予報。多少の雨降りを実感して現地に向かったが、房総半島は南に下る程雨脚が強くなって来る。下車した岩井駅の案内所に同行者の人が最新の天気予報を聞いた処、夕方まで雨とのこと。目的地を伊予が岳より手前の富山に変更して出発。

山を登るにつれて、前線通過の影響で雨、風が強くなり、今日は「ついてない」の気持ちが頭をもたげる。しかし、天は我らを見捨てず、12時過ぎ山頂付近で昼食を終えた頃から、風雨が止み始め、下山途中からは風は南風となり、青空も見えてきて気温も上昇。まさしく春を先取りする天気となる。

岩井駅に向かう途中は、あちこちにある水仙が満開となって咲き、散見された梅の木には梅の花が咲いている。終わりよければすべてよしあ、来てよかったとの思いを強くする。

このあと、楽しさを一層深めるべく、有志5人と保田のばんやに寄り道し、新鮮な刺身と金目のあらにを肴にビールで喉をうるおす。

記：A.Sさん

コースタイム

福満寺(10:20)…観音堂(富山南峰)
(11:20-11:25)…富山北峰(11:40-12:00)
…伏姫籠穴(12:50-13:20)…岩井駅(14:05)

リベンジを目指した。



西丹沢自然教室の前で(船橋労山の方)

バスの中で知り合った船橋労山の方と、西丹沢自然教室の前で集合写真を撮る。とても明るく、気持ちの良い方だった。労山の人たちは、加入道山を目指すという。

私たちは、一足早く登山道に入る。急斜面を少しジグザグに登り、山腹をトラバースしてゴーラ沢出合を目指す。右側が切れているので注意が必要だ。栈道がいくつかあって慎重に通過する。右後には権現山と畦ヶ丸が見えてきた。途中でミツマタの群落に出会った。まだつぼみだが、咲いたら一面を黄色に染めてとてもきれいだろうなと思った。

東沢を渡ってゴーラ沢出合に着く。ここから急登となる。すぐに鎖場が現れるが、問題なく登っていく。時々、雪も出てきた。多少滑るところがあるが、何とか展望園地まではアイゼンなしで行きたいと思う。展望園地の手前は、かなりの雪があったが、そのまま登り、展望園地で昼食とする。展望園地からは富士山がよく見える。日も差してきて、風もなくホッとする一時だった。



展望園地で休憩

展望園地で軽アイゼンを付け、雪の多い斜面をトラバースし、その後尾根上を歩く。前と後が離れるため、「オーイ」と声をかけるのだが、何かあったと思った人が「遭難」と大声を出す。私たちは遭難があったのかと思い、「どうしたのですか？」と声をかけるが、また「遭難」と返ってくる。どうも大声を出した私たちが遭難したのではないかと思ったようだが、「遭難」だけでは良く分からず、こちらは「遭難」と言

っている人が遭難したのかと思ってしまった。

とにかく、下っていく人に下から「遭難」という声が聞こえたので、下っていく時に確認してくださいと伝えて、私たちは山頂までもう少しなので登っていく。



ルリビタキ

最後は鎖や梯子のある急坂を登る。木の階段が出てくると、テシロノ頭方面への分岐に近い。Aさんが少し遅れ気味だが、NさんとIさんが一緒に登ってくれているようだ。富士山や南アルプス、相模湾、大野山、八ヶ岳などの見える展望のすばらしいところを登り、念願の檜洞丸山頂に到着する。山頂付近からは、蛭ヶ岳や丹沢山、塔ノ岳、鍋割山なども見えていた。集合写真を取って、すぐに下山にかかる。



山頂直下からの富士山

急斜面が続くが、適切なサポートで順調に下り、ゴーラ沢からはYさんとKさんに先に下ってタクシーを呼んでもらうことにする。夕陽に山がほんのり染まる中を、山腹をトラバースして、下っていく。ようやく林道に出ると、すぐに薄暗くなってきた。

非常に寒かったが、西丹沢自然教室にきてく

れたタクシーに乗り込み、ホッとして新松田駅に向かった。

記：網干



《参加者の感想》

久しぶりに標高差 1000mを超える山行で最後はきつかったのですが、K.N さんの「私、山頂に行きたいの!」という意気込みに励まされ最後のパワーが湧き出ました。全員で山頂に立ち、どんと構える大きくて美しい富士山を眺めるといつものようにそれまでの苦しかったことは吹き飛ばしてしまいました。

今回の山行では、雪が少ない所や岩の上などアイゼンが邪魔となり危険を感じる箇所もありました。私自身も木の根っこにアイゼンを引っ掛けて転びそうになりました。(;-;) 最後まで気を抜かない注意力が必要ですね。「家に帰るまでが山行」を忘れずに、これからも安全第一で行きましょう!

追伸

会計担当の皆様、バスや帰りのタクシーなど煩雑な計算もあり大変だったと思いますが、取りまとめ頂き、ありがとうございました。お蔭様で交通費を安くすることができました。

記：M.Yさん

コースタイム

西丹沢自然教室(9:50) … ゴーラ沢出合(10:55-11:00) … 展望園地(11:55-12:30) … 檜洞丸(14:10-14:30) … 展望園地(15:45-15:50) … ゴーラ沢出合(16:55-17:00) … 西丹沢自然教室(17:50)

ハイキング報告

★第32回ふれあいハイキング(房総風土記の丘)(12月2日)

参加者 会員(健常者7名)

会員外(健常者1名)

今日の天気予報は、午前中がよく、午後からは曇り空になるとのこと。雨の心配はなさそうなのでありがたいが、今朝の冷え込みはこの冬一番と言うことで、さすがに日影にいると寒くなってくる。

参加予定だったFさんは、京成成田駅で、自宅のストーブを消し忘れたということで、そのまま引き返すことになってしまった。夕方連絡があり、やはりついていたとのこと。事なきを得てよかった。

下総松崎駅で、6年ぶりに参加してくれた!

さんと再会する。今は佐原に住んでいるそうだ。

すばらしい天気の下、まずは坂田ヶ池を目指して歩く。池には、ハシビロガモやオオバンなど、水鳥がたくさん浮かんでいた。



続いて101号古墳を訪ね、旧学習院初等科正堂前の広場を歩いて旧平野家住宅に行こうとしたが、道がはっきりしていなかったため、

一度、道路に出て、岩屋古墳を見た後、旧御子神家を先に見て、次ぎに旧平野家住宅を見に行く。御子神家は、安房郡丸山町に建てられた江戸時代の中規模農家で重要文化財に指定されている。平野家は、富津市亀沢に建てられた名主の家らしい。

房総のむらは入場料を取られるということで入場せず、ドラムの里で昼食を取り、安房の農家などに向かおうとしたが、そのような道がなく、安食方面に車道を歩いていると、風土記の丘北口に出た。ここは、龍角寺に向かう分岐点だ。通り過ぎていることを知ったが、道がないので、風土記の丘資料館に行くことにする。ここも入場料がかかるが、60歳以上は無料のため、全員が入ることにする。そして、分かったのは、資料館で入場料を払うと、房総のむらにも入れることだ。そして、安房の農家などは房総の村の中にあることを知った。



ということで、この時点で予定時間を大幅にオーバーしていたが、房総のむらを歩くことにする。

水田、炭焼き小屋、上総の農家と歩き、茶店で甘酒などを飲む。そして、安房の農家、下総の農家を回る。この房総のむらは、いろんなところで、いろんな体験をできることが売り物のようだ。働いている人たちも、当時の服装で、当時の用具を使って、掃除をしたり、わらじを編んだりしている。なので、タイムスリップした感じに浸れて、とてもおもしろく感じた。

そして、武家屋敷、商家の町並みと巡る。商

家の町並みでは、刀を持って武士の格好をしたり、姫の格好をしたりして、すっかり役者になっているコスプレの若者と一緒に写真を撮って楽しむ。



資料館に戻り、次の龍角寺を目指す。ここでも道を間違い、資料館脇の古墳広場を通らず、車道を進んだため、遠回りして龍角寺に行くことになってしまった。



龍角寺では、何とタヌキが現れてくれた。顔を向けてくれなかったが、もこもこの体はタヌキに違いないだろう。龍角寺は、7世紀の伽藍跡が発見されていて、関東地方でも屈指の古寺らしい。

龍角寺を出ると、あとは一路、安食駅を目指す。この頃には、さすがにみんな足が疲れて、バスの時間も見たが、1時間以上待たないと次のバスがないので、あきらめて歩く。コースを間違えて、予定よりも時間がかかってしまいましたが、みなさまのご協力により、無事に終わることができましたことに感謝申し上げます。お疲れさまでした。

コースタイム

下総松崎駅(10:30)…101号古墳(11:05)…

房総のむら(11:45-14:30)…龍角寺(15:10-15:25)…安食駅(16:10)

★第17回ミニハイキング(観音寺～新川)(1月13日)

参加者 会員(健常者5名)

会員外(障害児1名、健常者2名)

カルガモが浮かんでいた。

今日は、素晴らしい天気恵まれ、風もなくあたたかなハイキング日和だ。

八千代台駅で今回初参加のYさん親子が見つからず、心配したが無事に合流して、自己紹介の後、出発する。

まずは、八千代台北子供森を目指す。SさんがH君と手をつないで歩いている。子供森には、滑り台などの遊具があり、子どもたちに遊んでもらう。



次は観音寺を目指す。観音寺の入口には、2階の屋根まで届く大きなサボテンを見つけて、みんなビックリ。ここまで大きくなるのに、どのくらいの年月がかかるのだろうか？

観音寺は、八千代市八福神の布袋尊を祭っている。お腹や頭に触って、御利益を願う。

ここから長い距離を歩き、萱田地区公園を目指す。途中、Yさんの家の近くを通り、ハミング通りから八千代中央駅を経由して萱田地区公園に到着。ここで昼食タイムとする。池には、



昼食後は、「ちょっと寄り道を」という声がかかり、Sさん宅の前を通り、飯綱神社へ行く。飯綱神社からは、新川方面が見下ろせる。ここで集合写真を撮って、新川を目指す。新川にかかる宮内橋を渡る。新川には、オオバンが浮かんでいた。ガキ大将の森の脇を通り、国道16号線の下を通って、村上緑地公園を目指す。

村上緑地公園にも多くの遊具があり、YさんがAちゃんを見守りながら、一緒に遊んでいる。H君は、お母さんが一緒にいてくれる。公園内の林の中を歩いて、今度は、Mさんや私の家の近くを通過して勝田台駅に向かう。

長い行程を最後まで歩き通した子どもたちは、本当にがんばりました。また、最後まで子どもたちを見守ったりして安全に配慮していただいたみなさまに感謝いたします。

コースタイム

八千代台駅(10:05)…八千代台北子供の森(10:30-10:50)…萱田地区公園(12:10-12:35)…飯綱神社(13:00-13:05)…村上緑地公園(13:45-14:10)…勝田台駅(14:35)

★第33回ふれあいハイキング（本町田遺跡）（2月24日）

参加者 会員(障害者7名、健常者16名)
会員外(障害児1名、健常者5名)

今回は、会員外の方6人、子どもたち4人の参加もあり、久しぶりの大人数になった。

町田駅では、バス乗り場がなかなか分からず、北口だと分かって向かったら、ギリギリ予定の時間に間に合った。というより、運転手さんに待っていただいた。



日向山公園カリヨンホールの前で

薬師池は、裏門から入る。水車小屋では、水が溜まってからガタンと大きな音を立てて回る水車に感激する。薬師池集合のSさん親子と電話で連絡を取り合い、合流する。トイレを済ませ、自己紹介をした後、公園内を歩いて薬師堂に向かう。薬師堂の大銀杏は幹周りが大人が両手を広げて4、5人くらいだった。約6mほどだろうか？

薬師池からの道が分かりにくかったが、ぼたん園に向かって、未舗装の林や畑の横の道を歩く。何とかぼたん園に着き、ぼたんが咲いていないため、無料で中に入り休憩する。

七国山には、旧鎌倉街道の石碑と鎌倉井戸跡があった。旧鎌倉街道を歩き、ダリア園に立ち

寄る。ここもまだダリアは咲いていないため、花を販売している温室内などを見て、次ぎに向かった。

しばらく車道を歩き、今井谷戸の交差点を過ぎてからは、本通りの脇を通る作られた小川のある歩道を歩く。ここではキセキレイを見つけ、驚いた。キセキレイはもっと山の溪流にいると思ったのだが、町田でみるとは思わなかった。

日向山公園に上がると、餅つきをしているグループもあり、にぎやかだった。ここで昼食タイムとする。室内で食べる人と、屋外で食べる人がいた。取りあえず、このカリヨンホール前で集合写真を撮って、今日の本命、本町田遺跡に向かう。



本町田遺跡弥生住居の前で

本町田遺跡には、縄文住居と弥生住居があった。縄文時代は、二又になった木を主柱にして、横木をつるで結んでいたが、弥生時代は、木の加工技術が進み、主柱に溝を切って横木と組み合わせていたようだ。また、壁の部分も板を使うようになっていた。



宏善寺のしだれ梅を見る

次ぎに市立博物館に行き、無料で入れる子どもたちと数人が中に入った。我々は外で待っていたが、管理人さんに人数などを聞かれたが、そこで久住山宏善寺にしだれ梅があるので見た方がよいと教えていただき、予定を少し変更して見に行くことにする。

入口が分かりにくかったが、無事に宏善寺に着き、立派なしだれ梅を堪能させていただいた。ここから、本通りに出て、バスで町田駅に向かった。

記：網干

《参加者の感想》

本町田遺跡の住居は、見た目以上に広く、中

で火をたいたらこの時季、快適でしょうと、古代の人立ちの英知に、感動しました。

記：M.Kさん

コースタイム

薬師池(10:05) … 町田ぼたん園(10:30-10:45) … 七国山(11:05) … 町田ダリア園(11:15-11:25) … 日向山公園(11:55-12:45) … 本町田遺跡(13:00-13:10) … 市立博物館(13:15-13:30) … 久住山宏善寺(13:40-13:45) … 第3小学校前バス停(14:00)

3月2日～3日のリーダー養成コース（鳳凰三山）は、参加者少数のため中止しました。

その他事業報告

★臨時総会開催

1月12日（土）に次年度の事業計画を決める臨時総会を開催しました。

登山等の計画については、議案通りとなりましたが、年会費の割引制度は法人の運営がますます厳しくなることから、現状のままとすることに決まりました。

また、参加費についても、グレードによって上乘せしたり、冬山を高くしたり、岩登り技術

講習会の参加費を高くするなど理事会で検討し、決めることとなりました。

また、アンケートで寄せられた意見を生かし、広報の方法などを理事会で検討するよう要望が出されました。

詳細は、臨時総会議事録と2月7日に実施した理事会の議事録を参照ください。

☆1%支援制度で支援金をいただきました

2012年度の1%支援制度では、34件の選択届け出があり、32,696円の支援金を交付していただきました。なかなか支援金の額は増えず、「自然と親しむ子ども山登り教室」の

スタッフの交通費などを賄うところまで行きませんが、支援していただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。

各種連絡事項

▲活動紹介映写会開催

3月9日（土）9時30分から八千代市総合生涯学習プラザで、恒例の活動紹介映写会を

実施します。9時から準備を行いますので、会員のみなさまはぜひご協力をお願いいたします。

△気象講習会開催

4月6日(土)13時30分から八千代市東南公民館で実施する「第7回自然と親しむ子ども山登り教室」説明会の後、気象研究家の弊氏

をお招きし、気象講習会を行います。登山の大切な技術の一つである気象の知識をこの講習会で、ぜひ高めてください。

▼1%支援制度の申請を2013年度も実施します

2013年度も「自然と親しむ子ども山登り教室」のスタッフの交通費などの支援金を申請し

ます。ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

12月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いいたします。(敬称略)

正会員

杉本泰彦 千葉県千葉市若葉区千成台東2-39-1-701 TEL.043-309-7945

編 集 後 記

・理事長のつぶやき

以前、障害を持つある男性に、「無私無欲の精神こそ、日本人が最も尊い心としていたんだよ」と話したら、「(人を)無視することが尊いのですか?」と言われ、啞然としたものです。彼はまだ若いのですが、「無私無欲」という言葉さえ、聞くことがほとんどなかったのでしょう。今は、そのような時代なのかも知れません。

完全な「無私無欲の精神」でいることなど誰もできません。しかし、その精神が最も尊いも

のであることを心に刻み、それができずにいる自分自身を、未熟な人間としてとらえ、常に謙虚な気持ちで生きることが大切なのだと思います。そして、謙虚な気持ちで生きるとは、きっと幸せな生き方につながるものだと思います。ついつい傲慢になったり、自分の損得を考えたりしてしまう自分を反省し、一歩でも半歩でも「無私無欲の精神」に近づけるよう、生きていきたいなと思います。

・次回発行予定は、6月です。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ!!

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

